

# 平成29年度事業報告書

一般社団法人日本分析機器工業会

# 平成29年度 事業報告書

(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)

平成29年4月1日から平成30年3月31日までの期間において、一般社団法人日本分析機器工業会が実施した事業について、次のとおり報告致します。

## I. 会員の異動

会員の異動は、別紙1のとおり。平成29年度における入会は正会員1社および賛助会員3社、退会は正会員6社および賛助会員4社で、会員総数は平成29年度末現在で177社となった。

平成28年度期末会員数 182社 (正会員111社、賛助会員71社)

平成29年度期末会員数 177社 (正会員107社、賛助会員70社)

## II. 総会、理事会等

### 1. 総会

一般社団法人日本分析機器工業会平成29年度定時総会を次のとおり開催した。

- (1) 日 時：平成29年5月18日(木) 15時00分～16時20分
- (2) 場 所：霞山会館 牡丹の間
- (3) 出席者：正会員112社のうち出席80社 (うち委任状提出・書面議決権行使 計56社)
- (4) 承認された議案は次のとおり。

第1号議案 平成28年度事業報告および平成28年度収支決算書案の承認に関する件

第2号議案 役員任期満了に伴う改選に関する件

- (5) 報告案件

報告事項 平成29年度事業計画および収支予算の件

### 2. 理事会 (役員名簿は別紙2のとおり)

#### (1) 開催状況

第1回	平成29年4月13日(木)	11:30～12:30
第2回	平成29年5月18日(木)	14:00～14:50
臨時理事会	平成29年5月18日(木)	15:55～16:10
第3回	平成29年7月14日(金)	12:00～14:00
第4回	平成29年9月6日(水)	8:15～9:00
第5回	平成29年10月20日(金)	12:00～14:00
第6回	平成29年11月24日(金)	16:00～17:00
第7回	平成30年1月10日(水)	15:30～16:30
第8回	平成30年3月15日(木)	15:30～17:30

## (2) 主な決議事項

- ①平成 28 年度事業報告書案および収支決算案の承認（第 1 回）
- ②平成 29 年度定時総会議案の承認（第 1 回）
- ③賛助会員入会の承認（GE ヘルスケア・ジャパン株式会社、株式会社キアゲン）（第 2 回）
- ④労務委員会および広報委員会の副委員長選任（第 2 回）
- ⑤協賛名義使用の新規承認（東京大学途上国における高等教育国際協働事業に関するシンポジウム）（第 2 回）
- ⑥会長、副会長および専務理事の選定（臨時理事会）
- ⑦JASIS 2017開催に関する覚書締結の承認（第3回）
- ⑧分析機器の将来技術戦略に関する調査研究実施の承認（第4回）
- ⑨後援名義使用の新規承認（地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所教育講座「不具合・故障解析実務セミナー）（第6回）
- ⑩平成30年度工業会基本方針および事業計画の重点の承認（第7回）
- ⑫協賛名義使用の新規承認（国際計測連合第23回世界大会（XXIII IMEKO World Congress））（第7回）
- ⑬会員入会の承認（正会員：株式会社堀場アドバンスドテクノ、賛助会員：ノバ・バイオメディカル株式会社）（第 8 回）
- ⑭医療機器委員会委員長および広報委員会委員長・副委員長の選任（第8回）
- ⑮JASIS中期戦略検討特別委員会活動報告および今後の進め方の承認（第8回）
- ⑯平成30年度事業計画および収支予算の承認（第8回）
- ⑰GDAジュネーブ代表のリテイナー契約への共同参加に関する合意書締結の承認（第8回）
- ⑱設立60周年記念事業実施方針の承認（第8回）

## 3. 代表者懇談会

平成 30 年 1 月 10 日(水) 15 時 30 分～16 時 30 分、パレスホテル東京で正会員 40 社の出席を得て代表者懇談会を開催した。栗原会長挨拶の後、平成 29 年度事業中間報告を松浦専務理事、森安企画戦略会議議長から総括説明し、JASIS WebExpo 2018・JASIS 関西 2019 を長谷川展示会委員長から紹介した。代表者懇談会に引き続き、約 240 名の参加者を得て新年懇親会を開催した。

### Ⅲ. 平成 29 年度において行った事業の概要

#### 1. 分析機器に関する調査および研究

- (1) 技術動向調査（技術委員会）
- (2) 環境関連技術動向調査（環境委員会）
- (3) 主要労働条件に関する調査・研究（労務委員会）
- (4) 知的財産権の管理推進に関する調査研究（知的財産委員会）
- (5) 分析機器の海外市場動向調査（国際委員会）
- (6) 分析機器工業に関する調査（統計委員会、事務局）
  - ・分析機器工業の経営実態調査（正会員を対象に悉皆調査）
  - ・分析機器の生産・輸出入動向調査（正会員・賛助会員対象、四半期）

#### 2. 分析機器に関する情報収集および提供

- (1) 分析機器の手引きの発行および頒布（技術委員会）
- (2) 環境分析関連資料の情報収集および会員への提供（環境委員会）
- (3) 分析機器に係る欧州規制等関連情報の収集および会員への提供（RoHS、REACH、WEEE、ErP 等、環境委員会）
- (4) 人事・労務管理上の課題に関する情報交換会の実施（労務委員会）
- (5) 知的財産権の管理推進に関する会員企業相互の情報交換会の開催（知的財産委員会）
- (6) 輸出管理に関する情報収集および会員への提供（国際委員会）
- (7) 海外規制、国内薬機法の動向に関する情報収集および会員への発信（医療機器委員会）
- (8) 機関誌 JAIMA Season 発行（広報委員会）
- (9) JAIMA Web サイトによる各種行政情報等の情報発信（広報委員会、事務局）

#### 3. 分析機器に関する規格、基準の策定および標準化の推進

- (1) JIS K0123 「流れ分析通則」の改正作業実施（環境委員会）
- (2) JIS K0123 ガスクロマトグラフィー質量分析通則の改正作業実施（環境委員会）
- (3) 公益社団法人日本医師会実施の外部精度管理調査事業への支援（医療機器委員会）
- (4) 体外診断用医療機器の安全に関する IEC 規格の普及および JIS 化（医療機器委員会）

#### 4. 分析機器に関する展示会の開催等

- (1) JASIS 2017 を（一社）日本科学機器協会（JSIA）と共同開催（展示会委員会）
- (2) 新技術説明会、コンファレンスの開催（展示会委員会、技術委員会他）
- (3) JASIS WebExpo 2017 開催、JASIS Web Expo 2018 開催準備
- (4) 「JASIS 2018」（第 7 回）の開催準備（展示会委員会）
- (5) JASIS 関西 2019 の開催準備（展示会委員会）

## 5. 分析機器に関する講演会等の開催

- (1) 環境規制関連講演会の開催（環境委員会）
- (2) 労務・人事担当者に対するセミナー開催（労務委員会）
- (3) 知財管理関連セミナー開催（知的財産委員会）
- (4) 医療機器公正取引競争規約インストラクター養成研修の実施（医療機器委員会）
- (5) 「ライフサイエンス・イノベーションセミナー」開催（医療機器委員会）

## 6. 分析機器に関する内外関係機関との交流および協力

- (1) 政府関係機関への協力
  - ①計量法、薬機法、安全保障貿易管理令、環境規制関係法令等分析機器に関連する法令の施行および関連する行政施策への協力並びに当該関連情報の会員への情報提供（各委員会、事務局）
  - ②工業会作成統計等の経済産業省への提供（統計委員会、事務局）
  - ③特許庁審査官との情報交換（知的財産委員会）
  - ④経済産業省と協力し「安全保障貿易管理説明会」の開催（国際委員会）
  - ⑤医療機器業公正取引協議会日本分析機器工業会支部を通じ医療機器の公正取引に関する指導、相談、普及活動実施（医療機器委員会）
- (2) 海外機関との交流および協力
  - ①Pittcon との連携（企画戦略会議、国際委員会、展示会委員会、技術委員会）
  - ②BCEIA（中国）等との連携強化（国際委員会）
  - ③JASIS に併催された国際コンファレンスを企画運営（技術委員会）
  - ④ALDA、GAMBICA 等海外関連諸団体との交流活動の推進と連携強化（国際委員会）
  - ⑤ALDA、EUROM II 等と受注統計データを交換、会員への提供（国際委員会）
  - ⑥EDMA（欧州）等の IVD 工業会との交流（医療機器委員会）
- (3) その他機関との交流
  - ①(一社)医療機器産業連合会の活動に参画し、工業会の意見の行政への反映を図るほか、薬機法や欧州指令等に関し会員への情報提供、調査等を行う。（医療機器委員会）
  - ②体外診断用医療機器に関し（一社）臨床検査薬協会と連携、「IVD-MD の地位向上 WG」活動を実施（企画戦略会議、医療機器委員会）

## 7. その他本会の目的を達成するために必要な事業

- (1) 当工業会に関係する団体主催の協賛名義、後援名義等の付与（事務局）
- (2) 分析機器に関する国内および輸出向け団体 PL 保険制度の実施（事務局）
- (3) 顕彰等に関する事業
  - ①国、公共機関、団体等が行う表彰制度等の会員への紹介等
  - ②先端分析技術 JAIMA 機器開発賞への協力
- (4) 高校生向けサマーサイエンススクールの開催（技術委員会）

- (5) JASIS 関連情報、セミナー情報、社会性、公共性のある JAIMA 活動状況をタイムリーに発信（広報委員会）
- (6) 認定分析機器・科学機器遺産の PR（企画戦略会議、事務局）
- (7) 工業会の社会的価値と諸活動を対外的に知らせる『工業会案内』（和英）、および『入会のご案内』の刊行（広報委員会、事務局）

#### IV. 委員会活動

##### 1. 企画戦略会議

###### (1) 企画戦略会議開催

- ①平成 29 年度に企画戦略会議を 8 回開催し、理事会に上程する議題の審議を行った。また、企画戦略会議委員が分担して各常設委員会に参加し、活動のモニタリングを行い、複数の委員会に跨って調整が必要な事項を企画戦略会議で審議し、調整を行った。
- ②正副委員長会議を開催し、各委員会が概ね当初計画どおりに活動していることを確認するとともに各委員会事業の成果を取りまとめ、理事会、代表者懇談会等で定期的に報告した。
  - ・平成 28 年度事業報告を実施（第 1 回理事会）
  - ・平成 29 年度事業中間報告を実施（第 6 回理事会）
  - ・平成 29 年度事業中間報告を実施（H30. 1. 9 開催の代表者懇談会）
  - ・第 1 回正副委員長会議開催 各委員会事業計画/予算説明・意見交換実施（H29. 9. 28 開催）
  - ・第 2 回正副委員長会議開催 各委員会事業中間報告・意見交換実施（H30. 2. 13 開催）
- ③常設委員会から提出された平成 30 年度事業計画（案）および収支予算（案）について調整し、第 8 回理事会に上程した。
  - ・平成 30 年度事業計画案を説明（第 8 回理事会）

###### (2) JASIS 中期戦略検討特別委員会開催

JASIS の中期的課題について議論し、特に、JASIS 関西およびバーチャル JASIS（Web Expo）の具体的な実施案を検討し、理事会に報告した。

- ・第 1 回：JASIS コンファレンスの在り方について検討（H29. 4. 13 開催）
- ・第 2 回：新企画（JASIS 関西、JASIS WebExpo、OSF、LSZ）の進捗状況について確認、検討（H29. 6. 1 開催）
- ・第 3 回：中期的課題の検討進捗状況確認、関西 JASIS の場所・日程等検討（H29. 6. 1 開催）  
〔H29. 7. 14 開催第 3 回理事会にて新企画（関西 JASIS、JASIS WebExpo）の内容説明を実施〕
- ・第 4 回：JASIS 2017 の振り返り、JAIMA 会員減少対策の検討（H29. 10. 5 開催）
- ・第 5 回：JASIS 2018 特別企画内容、JAIMA 会員数減少分析・対策の検討（H29. 11. 2 開催）
- ・第 6 回：JASIS 2018 特別企画進捗状況および本特別委員会の今後の活動の検討（H29. 12. 1 開催）

- ・第7回：JASIS 2018 特別企画進捗状況および本特別委員会の今後の活動の検討（H30. 1. 12 開催）
- ・第8回：JASIS 2018 特別企画の方向性および本特別委員会の活動まとめの検討（H30. 2. 8 開催）  
〔H30. 3. 15 開催第8回理事会にて本特別委員会3年間の活動報告および今後の進め方（企画戦略会議の下に常設の小委員会を設置し引き続き活動すること）を提案〕

### （3）ライフサイエンス市場研究会開催

ライフサイエンス分野の将来動向理解とニーズ深耕、ITとの融合による次世代の分析機器関連ビジネスモデルの検討を行うため、昨年度に続き、工業会若手メンバーで研究会活動を実施した。

平成29年度は、研究会の形式で月に1回の定例会を実施。ICT・IoT・AIといった基本的な情報技術知識の習得を目的として講師を招いての勉強会を実施するなどの座学だけでなく、フィールドワーク（大学病院におけるICT活用現場の体験）、国内外の製薬会社とのオープンイノベーションの場を企画、実施した。

- ・医療現場でのICT・IoTの活用を調査するフィールドワーク実施（ICTを活用したスマートホスピタルである東京慈恵会医科大学付属病院内の見学）（H29. 4. 11 開催）
- ・第10回定例会（議題：慈恵会医科大見学報告、国内製薬会社とのオープンイノベーション）（H29. 4. 17 開催）
- ・第11回定例会（活動内容振り返り、JASIS 2017の基調講演とLSZの紹介）（H29. 5. 17 開催）
- ・第12回定例会（議題：中山登氏による創薬勉強会、国内製薬会社とのオープンイノベーション）（H29. 6. 21 開催）
- ・国内製薬会社内研究所にて第1回オープンイノベーション会議を実施（H29. 7. 19 開催）
- ・第14回定例会（国内製薬会社とのオープンイノベーションの今後の進め方、Pittconへの取り組み）（H29. 8. 23 開催）
- ・第15回定例会（国内製薬会社とのオープンイノベーションの今後の進め方について合意、本研究会の今後の進め方に関して）（H29. 9. 20 開催）
- ・第16回定例会（国内製薬会社とのオープンイノベーション関連の現状報告、本研究会の今後の進め方に関して）（H29. 10. 18 開催）
- ・第17回定例会（今後の年間スケジュール・進め方に関してブレインストーミング、Pittcon 2018の概要に関して）（H29. 11. 22 開催）
- ・第18回定例会（ライフサイエンス市場研究会の今後1年間の活動計画について策定、JASIS 2018の募集開始についてお知らせ）（H29. 12. 20 開催）
- ・第19回定例会（ワーキンググループキックオフ、来年度の事業計画および予算について説明、自主勉強会1回目）（H30. 1. 17 開催）
- ・HTS-MS オープンイノベーション打合せ（H30. 1. 18 開催）
- ・第20回定例会（ワーキンググループでの討議、Pittcon 2018に関して最新情報の共有、自主勉強会2回目）（H30. 2. 21 開催）

- ・ 対外セミナーに向けた勉強会（岩瀬アドバイザーの講義を実施。従来の化合物探索から発展させたハイパー創薬の考え方を共有。）（H30. 3. 12 開催）
- ・ 第 21 回定例会（ワーキンググループでの討議、Pittcon 2019 JAIMA Symposium へのエントリー公募について、自主勉強会）（H29. 3. 14 開催）

#### （4）分析機器・科学機器遺産事業

平成 24 年度から平成 28 年度までの 5 年間、日本国民の生活・経済・教育・文化に貢献した貴重な分析技術/分析機器や科学機器を文化的遺産として後世に伝えることを目的に、（一社）日本科学機器協会との共同事業として「分析機器・科学機器遺産認定事業」を実施し計 77 品を認定したが、平成 29 年度にその成果を書籍に纏め、JASIS 2017 にての配布に加え、一般への頒布を行った。

#### （5）国内外の諸団体との連携強化

国内は、日本臨床検査薬協会と IVD-MD 会議を 4 回開催し、情報の共有と共通課題について議論し、IVD-MD 地位向上のため WG を 4 回開催、施策を審議した。また、JAIMA、JACRI 共催でメディア向けセミナーを企画、実施した。

海外の諸団体との連携強化については、中国 BCEIA、Pittcon Committee、メッセミュンヘン他との定期ミーティングを実施したほか、現地技術セミナー開催、PR ブース設置、JASIS アジアテクニカルフォーラム等への講師招へい、当該団体訪問などにより、インドネシア、マレーシア、タイ、インド等のアジア諸国の団体と交流を行い、関係強化図った。

## 2. 技術委員会

### （1）JASIS 2017 併催の JASIS コンファレンス等の企画運営

JASIS 2017 にて開催した JASIS コンファレンス、新技術説明会およびオープンソリューションフォーラム（OSF）の企画運営を実施した。

<開催結果>

- ・ JASIS コンファレンス：29 団体、52 セッション、聴講者数 4,507 名(昨年度 4,302 名)
- ・ 新技術説明会：発表テーマ 347 件、聴講者数：16,001 名(昨年 13,921 名)
- ・ OSF：聴講者数：1,619 名(昨年約 900 名)

特に、OSF は想定を大幅に上回る集客があり、このフォーラムのコンセプトが来場者のニーズを捉えていることが確認できた。

### （2）グローバル交流

平成 29 年度においては、国際委員会と連携し、海外の友好団体等との交流事業として以下のセミナー等を実施した。

- ・ TISTR' s From Local to Global International Forum: Food Industry 4.0 へ参加・セミナー開催(H29. 6. 14 タイ・バンコク)



- ・日韓技術交流セミナー開催（H29. 10. 19 大韓化学会秋季年会 韓国光州市にて開催）
- ・ASEAN Food Conference 2017 参加・セミナー開催（H29. 11. 15～16、ベトナム）
- ・Pittcon2018 JAIMA シンポジウム開催（H30. 2. 28 米国オーランド）

JASIS 2017 において「JASIS グローバル交流ゾーン」を企画運営し、海外から約 50 名の参加者を得た。今年度のグローバル交流ゾーンは活況を呈しており、JASIS のグローバル化に貢献した。

### （3）技術動向調査

JASIS における OSF 企画、分析機器の手引きの企画等の技術委員会が実行する技術セミナーや技術ドキュメント作成のための各種技術動向調査活動を実施。特に、OSF を魅力あるものにし、講演企業を惹きつけ、集客アップを図ることを念頭に基調講演者の招聘活動を実施し、JASIS 2018 における OSF テーマと基調講演者を選定した。

また、平成29年度は、分析機器将来技術戦略小委員会を設置し、第6期科学技術基本計画への反映の下地作りを念頭に置いた文部科学省の「ナノテクノロジー・材料分野の研究開発戦略検討作業部会」にJAIMAの意見を反映すべく調査活動を実施。同作業部会（第4回）において、杉沢技術委員長が「ナノテク・材料分野において求められる分析機器技術課題」の提案説明を行った。

### （4）分析機器の手引き

分析機器の手引編集作業部会を月に一度のペースで開催。新手引きの記載要領を作成し、第一弾の原稿依頼を実施した（3月2日）。利用者から高い評価を得ており、分析機器利用者のすそ野の拡大に貢献。

また、現行分析機器の手引きを改訂し、JASIS 2017 にて配布した。

### （5）次世代人材育成支援

#### ①高校生向け講習会の実施（サマーサイエンススクール）

高校生向けの分析機器講習会（サマーサイエンススクール）を企画し、会員企業 14 社の協力を得て以下のとおり実施した。

- ・開催日：平成 29 年 7 月 21 日／開催場所：日本科学未来館
- ・参加者：44 名

本事業は、JAIMA の社会貢献活動として大変有効で、本会を通じ、高校生を中心に若者層の分析機器や分析機器業界への関心が高まった。今年度は、これまでの活動が高く評価され、日本化学連合（化学系学協会 22 団体加盟）が啓発・普及活動を通じて化学・化学技術に対する社会の理解を深めることに貢献する個人および団体を対象に表彰を行う「化学コミュニケーション賞 2017」の「審査員特別賞（団体）」を受賞した。

## ②早稲田大学大学院創造理工学研究科” 素材機器分析評価” 講座開設準備

平成 30 年度に以下の早稲田大学大学院創造理工学研究科” 素材機器分析評価” 講座を開講する準備として特別講座申請、シラバス作成等を実施した。

- ・ 講座名：素材機器分析評価
- ・ 開設組織：早稲田大学大学院創造理工学研究科
- ・ 開催期間：平成 30 年 4 月より、4 ヶ月間で 15 回の講義を開催。
- ・ 概要：素材機器分析に用いられている分析機器メーカーの技術者・研究者を講師として招聘し、機器分析技術の原理やその評価方法、また実際の分析時における技術上の注意点などについて講述。

## (6) 他団体・機関との連携

他団体主催の展示会や学会等において以下の JAIMA 企画を実施し、JAIMA のプレゼンスを高め、JASIS への集客を図ると同時に、分析機器に関する技術動向やニーズを調査した。

- ・ 第 7 回 CSJ 化学フェスタ 産学官 R&D 紹介企画ランチョン講演を開催。(H29. 10. 17)
- ・ 東京大学工学部で開催された「途上国における高等教育国際共同事業に関するシンポジウム」参加。(H29. 5. 29)

## 3. 環境委員会

### (1) 規格・標準化事業の推進

#### ①JIS K0123「流れ分析通則」の改正作業

JIS K0123「流れ分析通則」の改正作業を行うため委員会を 5 回開催（ただし、当初の予定以外に議論すべき項目が多いため、追加の委員会を開催）し、JIS 規格改正原案を（一社）日本規格協会に提出した。

#### ②JIS K0123 ガスクロマトグラフィー質量分析通則

当工業会で平成 28 年度に作成した「JIS K0123 ガスクロマトグラフィー質量分析通則」改正原案を（一社）日本規格協会において発行するための原案修正に協力した。

#### ③その他の標準化活動

以下の外部委員会に出席し、特に以下の対応をした。

- ・ IEC/TC111-WG3 対応国内 WG

フタル酸エステル分析のエキスパートとして国際会議（H29. 10. 10-11、ウラジオストックにて開催）に出席。（中川勝博副委員長、H29. 10. 10-11）

- ・ アルキル水銀測定法国際標準化検討委員会

ISO 5814:2012 Water quality-Determination of dissolved oxygen- Electrochemical probe method [ 溶存酸素測定法（光学式センサ法）] に関する規格の見直し案の検討および投票を実施。

- ・ ISOTC61/SC5(物理・化学的性質)委員会  
ISO/CD 26723, Plastics -- Determination of total luminous transmittance and reflectance  
(プラスチックー全光線透過率および反射率の求め方) に関するコメントを ISO に提出。
- ・ (一社)日本計量機器工業連合会  
The International Organization of Legal Metrology (OIML) TC17/SC3 より、R54 (水溶液  
の pH 目盛) 1WD (第1次作業草案) に関するコメントが求められ、検討の上で提出。

## (2) 会員への環境規制関連の情報提供

### ①第1回環境規制関連セミナー (H29. 11. 27 開催)

演題：「可塑剤と環境規制～フタレートの現状の使用実態と安全性、そして規制動向を踏まえた  
将来展望～」

講師：可塑剤工業会 技術部長 柳瀬広美氏

### ②以下の情報を環境委員会を通じ会員に共有した。

- ・ RoHS 指令適用除外延長申請情報
- ・ UAE-RoHS の 2018 年 1 月 1 日施行に向けた情報 (分析機器には 2020 年 1 月 1 日適用)

## (3) 会員製品の環境法規適合のための情報発信

- ・ 会員製品の環境法規適合のための情報発信活動として、JBCE 環境委員会に出席 (河合委員長、  
H29. 5. 30)

## (4) 環境分析関連資料の充実および情報の提供

分析機器の手引きの改訂にあてり、資料編のⅢ. 分析機器関連資料 7. 分析手法又は分析機器  
の略語を更新した。

## (5) グローバル環境調査および水銀条約関連調査

- ①欧州委員会環境総局、英国政府機関 (DEFRA)、GAMBICA、LIGHTING EUROPE、コンサルティング  
ファーム (BiPRO) を訪問し、RoHS を始めとする法規制動向の情報収集を行った。(河合委員長、  
H29. 5. 29-6. 2)
- ②アラブ首長国連邦政府機関 (ESMA) に在 UAE 日本国公使、電気電子 4 団体とともに訪問し、  
UAE-RoHS 規制導入へのロビー活動を実施した。(河合委員長、H30. 1. 27-29)

## (6) JASIS 2017 への支援

JASIS 2017 において開催された OSF「環境規制」の企画、運営に参画した。

## (7) 見学会の実施

- ・第1回見学会：花王株式会社東京工場 参加人数 19名 (H29.7.6実施)
- ・第2回見学会：国立研究開発法人海洋研究開発機構 参加人数 16名 (H29.12.18実施)

## 4. 労務委員会

### (1) 人事・労務に関する情報交換の実施

委員会を3回開催し、人事・賃金制度、労働時間制度、退職金・年金制度等主要労働条件に関する調査・情報交換・事例研究を実施した。

- ・第1回 春闘各社結果について情報交換 (H29.6.5開催)
- ・第2回 働き方改革の取組状況について情報交換 (H29.9.6開催)
- ・第3回 海外勤務者(出張者含む)の安全対策について情報交換 (H29.11.10開催)

また、トピックス的信息交換として、eメールにより以下のテーマについて情報交換を実施し、緊急的に情報共有を行った。

- ・営業担当者に対する労務時間/手当について (H29.12月実施)
- ・死亡保障制度について (H30.2月実施)

### (2) 労務・人事セミナーの実施

JAIMA 会員の労務・人事担当者を対象に実務に役立つ講演会(セミナー)を開催した。

- ・セミナー名：「日立製作所における『役割・仕事』基準による新人事処遇制度 ～『世界市場で勝てる』人財・組織力を実現する～」
- ・日時：平成29年11月10日(金) 15:00～17:00
- ・講師：株式会社日立製作所 筒井亮太 氏
- ・場所：工業会会議室
- ・参加者数：23名

### (3) 異業種交流の実施

他業界における人事関連制度に関する調査および情報交換を以下のとおり2回実施した。

#### ① 楽天株式会社訪問

楽天株式会社において実現されている「社内公用語の英語化」について、その取り組み内容に関して情報交換を行った。

- ・日時：平成29年12月12日(火) 15:00～17:00
- ・訪問先：楽天株式会社本社 楽天クレムゾンハウス

## ②株式会社日立製作所大みか事業所訪問

株式会社日立製作所大みか事業所の IoT を活用した最先端工場を見学させていただいた。労務の視点から生産改革を考える良い機会をいただくとともに、労務管理等について意見交換を行った。

- ・ 日 時：平成 30 年 2 月 23 日（金）14：30～17：00
- ・ 訪問先：株式会社日立製作所大みか事業所

## 5. 知的財産委員会

### (1) 知的財産委員会開催

会員企業間の有用な知財関連情報の交換を行うために、知的財産委員会を 6 回開催した。

- 第 1 回 活動計画の討議、情報交換（H29. 4. 07 開催）
- 第 2 回 活動計画の討議、情報交換（H29. 6. 9 開催）
- 第 3 回 株式会社タカギ訪問（異業種交流）（H29. 7. 28 開催）
- 第 4 回 特許庁との意見交換会（H29. 9. 11 開催）
- 第 5 回 講演会（株式会社豊田合成様）（H29. 12. 5 開催）
- 第 6 回 小委員会発表会（H30. 2. 28 開催）

### (2) 知的財産委員会小委員会開催

知的財産権に関連する実務を遂行する上で有用な知識および情報の共有化を図り、併せて会員企業の若手実務者のスキルアップを図るため、特許庁の若手審査官もメンバーに加わってもらい、実務小委員会を設置。本年度は、11 回の小委員会を開催し、IoT 関連発明の課題についての研究を実施した。活動成果は積極的に開示し、会員企業の実務推考に役立ててもらうため、

- 第 1 回 H29. 5. 19 開催、第 2 回 H29. 6. 30 開催、第 3 回 H29. 7. 20 開催、第 4 回 H29. 8. 25 開催、第 5 回 H29. 9. 15 開催、第 6 回 H29. 10. 27 開催、第 7 回 H29. 12. 1 開催、第 8 回 H29. 12. 15 開催、第 9 回 H30. 1. 26 開催、第 10 回 H30. 2. 9 開催、第 11 回 H30. 2. 28 開催（計 11 回開催）

### (3) 特許庁との交流会

第 4 回知的財産委員会において、分析診断にかかわる特許・意匠・商標の審査官をお招きし、委員と情報交換を行った。

### (4) 異業種交流

他業種の施設訪問や講師招へいによる講演会開催を行い、他業種の知財管理への取り組み等についての意見交換を実施した。

- ・ 施設訪問

株式会社タカギを訪問し、事業所見学を含め、「蛇口一体型浄水器のトップメーカーの知財戦略」について意見交換を行った。（H29. 7. 28 開催）

- ・講演会（第5回知的財産委員会）

日時・場所：平成29年12月5日、工業会会議室

演題：青色LED開発経緯と展望

講師：豊田合成株式会社顧問 太田光氏

## 6. 国際委員会

### (1) JAIMA のグローバル化

#### 1) 海外友好協力団体との連携強化

##### ①アジア各国分析関連団体、展示主催団体との協力によるフォーラム開催

【国内】：JASIS 2017においてアジアテクニカルフォーラム・中国フォーラム実施

【海外】・インド Analytica India Anacon Conference にて JAIMA セミナー初開催 (H29. 9. 21)

- ・中国 BCEIA 中日科技发展フォーラム開催 (H29. 10. 10)

- ・シンガポール Separation Science JAIMA 講演開催 (H29. 11. 1)

- ・インド CPHI-PMEC India JAIMA セミナー 開催 (H29. 11. 30)

- ・アジア各国（中国、マレーシア、インド、ドバイ）の展示会相互出展実施

なお、中国 BCEIA 2017 中日科技发展フォーラムは、JASIS 2016 オープン・ソリューション・フォーラム の内容を基に実施したが、今後、JASIS のフォーラム等のコンテンツを海外に展開する。

##### ②海外展示会主催団体とのミーティング開催

中国 BCEIA、Pittcon Committee、メッセミュンヘンほかとのミーティングを実施

##### ③新規友好団体との関係強化

インドネシア、マレーシア、タイ、インドの団体と関係強化図った。特に、展示会出展、セミナー開催などインド市場への取り組みを強化した。

### 2) JAIMA の海外向け情報発信と国際的なプレゼンス向上

#### ①WEBINAR 開催など大使館の協力

米国、カナダ、フランス、スイスの在日大使館を訪問し、WEBINAR 開催など大使館の協力による情報発信を提案。(JASIS 2018 に向けフォロー)

#### ②Japan パビリオン出展

以下の海外展示会にて JAIMA が日系企業を纏めて Japan パビリオンを初出展し、会員企業の海外展開をサポートした。

- ・インド analytica Anacon India 4 小間 (3 社+JAIMA) (H29. 9 月)

- ・ドバイ Arab Lab 6 社+JAIMA 55 m<sup>2</sup>のパビリオン (H30. 3 月)

## (2) JASIS のグローバル化とアジアのハブ展化

### 1) JASIS 2017・JASIS 2018 出展勧誘活動

#### ①JASIS PR ブース出展

中国、米国、インド、中国、マレーシア、シンガポール、UAE の展示会に JASIS ブースを出展し、出展勧誘活動を実施。

#### ②分析機器関連友好協力団体訪問

JASIS へのアジア各国からの集客増を目指し、中国、韓国、台湾、東南アジア(ベトナム、タイ)の分析機器関連友好協力団体を訪問し、MOU 団体向け海外企業勧誘プログラムを用いて出展、来場勧誘、PR 活動を実施。また、日本市場開拓の有力ツールとして JASIS WebExpo を JASIS 2017 期間中の海外出展社説明会にて紹介し、2月 Pittcon からは海外展示会などでも PR を開始。

なお、JASIS 2017 への海外出展団体・企業は 41 社・機関 44 小間、海外来場者 702 名 (2016:34 社、37 小間、475 名となり、海外出展小間数、来場者は JASIS として過去最高、海外出展社数も 2013 年に次ぐ結果となった。

## (3) 輸出管理に関する情報収集と啓発活動 (輸出管理小委員会)

### ①輸出管理小委員会開催 (4 回開催)

改正外為法、水俣条約発行に伴う水銀関連法令に関する情報収集・意見交換等を行った。また、経済産業省にホスゲン等の検知器の規制除外、水銀標準試料の規制除外の要望を提出した。

### ②安全保障貿易管理説明会開催

- ・東京開催 参加者 116 名 (H30. 2. 2)
- ・京都開催 参加者 78 名 (H30. 2. 16)

### ③中国輸出管理法草案関連セミナー開催 (H30. 3. 28)

## (4) 海外市場における分析機器市場調査

JASIS 国際コンファレンスにて中国、インド分析市場動向の講演を実施。インド製薬市場動向についての UBM India の講演に高い関心を集めた。

また、海外展示会・団体との会議において各国の分析機器市況・市場データ等の収集を行い委員会等で報告した。

## 7. 医療機器委員会

### (1) 医療機器関連他団体との連携

- ①医機連(一般社団法人日本医療機器産業連合会) 各種委員会および関連 WG 活動に参画し、会員会社に情報および資料を配布した (5 回)。また、適時、会員の意見を収集し関連委員会に報告した。
- ②IVD-MD 会議を開催(5 回)し、情報の共有と共通課題について議論を行った。また IVD 地位向上 WG を開催(4 回)し、施策を審議した。臨薬協とメディア勉強会(3/8)を共催した。

③臨薬協および JIRA との 3 団体動物関連委員会合同会議を開催(6 回)し連携強化を図った。届出制度対象品目拡大について、農水省との意見交換を継続している。3 団体の共催による平成 29 年度動物用医療機器・体外診断用医薬品に関する医薬品医療機器法講習会(11/8)を開催した。

## (2) 臨床検査の標準化

### ①装置コード表作成

今年度より、工業会 HP に情報掲載中の装置コード表に会員企業が直接情報更新の入力を行うことができるシステム開発を検討し、システム開発費用の見積、要件定義を行った。

### ②国内標準化活動

- ・ IEC-TC66 に参加。(IEC61010-1 の 4th 草案などが提出された)
- ・ 提案していた IVD 用安全規格 JIS C 1010-2-101 の改訂版が公示(11/1)。
- ・ IEC61326-2-6:2012 の JIS 版である JIS C 61326-2-6 原案を(一社)日本規格協会に提出した。

## (3) 国際活動

①IVD/MD アジア WG では、10/9-10/14 に、在マレーシア日本大使館、JETRO クアラルンプール事務所、現地工業会 (AMMI、MMDA)、病院 3 件を訪問し、マレーシアにおける医療機器・IVD 規制の動向と、IVD 関連の市場情報を調査した。

②ISO/TC212 の WG3 (体外診断機器システム) 委員が、ISO CD 20916.2 の国際会議 (10/10~12@サンノゼ) の討議に参加した。

③IVD の地位向上に向けた国際活動として、臨薬協と共同して GDA (Global Diagnostics Alliance) に参画しており、ロビー活動のための代表コンサルタント提案書と合意書案が平成 30 年 1 月に纏まった。

## (4) メディカル・イノベーションへの取組み

①GDA の国際会議に合わせ、「欧州最新 IVD 規制セミナー」を臨薬協と共催にて開催。(H29. 9. 22)

②ライフサイエンスイノベーションセミナー「現代社会における医療とヘルスケアの融合領域を観る」を JASIS プロジェクト小委員会と共催で開催。(H30. 3. 30)

③取り組みの一環として、アークレイ株式会社京都研究所を見学。(H29. 6. 1~6. 2)

## (5) 公正取引の徹底

①JACLaS にてブースを設営し、公正取引の周知活動を行った。

②「公正競争規約勉強会」を、東京会場 (1/22)、京都会場 (2/2) で開催。

③公正競争規約のインストラクター養成研修を開催 (7/7) し、新たに 37 名のインストラクターが誕生した。”

④医機連と連携し、透明性ガイドラインに従った医療機器を販売する会員企業における活動費用の平成 27 年度実績公開状況調査を実施した結果、回答 33 社中 10 社が公開済みであった。



## 8. 広報委員会

### (1) JAIMA Web による情報発信

- ・ JAIMA Web で日英とも細かなメンテナンスを実施し、タイムリーな情報発信に継続的に取り組んでいる。
- ・ JAIMA Web のデバイスフリー対応、ユーザビリティ向上を継続的に改善している。JAIMA Web トップページで Web 分析総覧に掲載されている製品情報をランダム表示させたり、大型バナーに JASIS を掲載し、これらによって3つのサイトの結びつきを強化している。

### (2) Web 分析総覧のユーザビリティ向上

Web 分析総覧の本格的なリニューアル実現に向け企画案を委員会にて承認。当初想定よりもリニューアルに時間を要するため、平成 29 年度、平成 30 年度でリニューアルを進め、平成 31 年度 JASIS (幕張) 開催にあわせて公開する計画を立案した。

### (3) メルマガ「JAIMA 通信」による情報発信

会員向けメールマガジンを月刊で発行。規制動向等、国内外の情報提供を行い、平成 29 年度末で通巻 33 号となる。平成 30 年度は会員読者数の増加を実施する方向。

### (4) 会報 JAIMA Season による情報発信

- ・ 計画通り、年 4 回の発行を実施した。経費を削減しつつ全面カラー化を実現した。
- ・ また、121 号 (平成 22 年 8 月) より連載を開始し、技術系の初心者にも分かりやすい内容で読者に好評を博してきた人気コーナー「分析の原理」の後継企画検討を行い、153 号 (平成 30 年夏) から「機器分析が支える、豊かな暮らしと産業のフロンティア」を連載開始することを決定した。

### (5) プレス関係

#### ① プレスリリース作成・記者会見実施

- ・ JASIS に関連するものを中心にプレスリリースを実施した。また、JASIS 2017 初日の記者会見については、ホットな話題を発信できていない、という前年度までの課題に対し、関係委員会、事務局、JSIA との事前調整の結果、新規情報を 4 件発信することができ、JASIS 2017 初日の記者会見も成功裡に終了した。
- ・ 平成 29 年度プレスリリース実績：プレスリリース件数 16 件 (前年 7 件)

※メディア掲載数 450 件 (前年 218)、広告換算金額 4,700K 円 (前年 1,640K 円) を超える見込み。いずれも過去 3 年間で最高値の出来であった。メディア掲載数、広告換算金額はいずれも「@press (アットプレス)」調べ。

## ②メディアパートナーと連携

Wiley、LABePEDIA などメディアパートナーと連携し、JASIS および JAIMA の対外的、国際的認知度向上に寄与した。

## (6) 工業会案内、入会案内の作成

平成 29 年度に 『工業会案内』(和文／英文) を改訂・発行した。

## 9. 展示会委員会

### (1) JASIS 2017 開催

JASIS 委員会(JSIA との合同展示委員会)の下に 5 つの小委員会(展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・OSF、来場促進)を設置し、JASIS 2017 の企画、準備、出展募集、来場者確保等を実施し、平成 29 年 9 月 6 日～8 日の 3 日間、幕張メッセ国際展示場(4～8 ホール)で JASIS 2017 を開催した。(「分析展／科学機器展」から「JASIS」へと名称変更後、6 回目の開催)

#### 【主な開催までのスケジュール】

- ・出展申込締切：平成 29 年 3 月 13 日
- ・出展募集説明会：一般 平成 29 年 2 月 10 日開催  
ライフサイエンスイノベーションゾーン(LSZ) 平成 29 年 2 月 17 日開催
- ・出展社説明会：平成 29 年 6 月 8 日
- ・オープン・ソリューション・フォーラム(OSF) 発表会社向け説明会 平成 29 年 7 月 7 日開催

#### 【開催実績】

- ・来場者数 : 24,856 人 延 29,392 人(昨年 23,408 人 延 29,376 人)
- ・出展小間数 : 1,478 小間(昨年 1,468 小間)
- ・出展社数 : 506 社(504 社)
- ・海外来場者 : 702 人(昨年 475 人)、学生 : 826 人(昨年 773 人)
- ・来場者数、出展社数、出展小間数ともに過去最高の実績となった。
- ・海外からの出展社も 13 か国から 41 社 44 小間となり、7 社 7 小間増加となった。

### (2) JASIS 2017 特別企画開催

#### ①オープン・ソリューション・フォーラム(OSF)

JASIS 2017 展示会場において、第 2 回 OSF(テーマ別新技術説明会)を開催した。「素材・材料の開発と品質管理が我が国のものづくり競争力を支える」をコンセプトとして、「環境規制」、「食品のおいしさ評価」、「自動車」の 3 テーマごとに基調講演および出展社によるソリューション発表を実施した。来場者は、予想を大きく上回る 1,619 人(昨年 : 854 人)となった。

- ・基調講演 6 テーマ、出展企業発表 19 テーマ

## ②ライフサイエンスイノベーションゾーン(LSZ)

JASIS 2017展示会場において、ライフサイエンス分野の分析機器・科学機器の新市場創出を目指す発信の場としてLSZを開催した。ライフサイエンスイノベーションに関連する基調講演、関連の先端分析技術・製品等の展示ゾーン（66社・団体の出展）、企業プレゼンテーション会場、商談ラウンジをゾーン内に設け、講演者、展示出展社、来場者が様々な形で情報交換の場として活用できるような工夫を行った。メインの基調講演は、「次世代ヘルスケア」、「ヘルスケアと薬づくり」、「人工知能・深層学習、バイオへの応用」、「早期治療を実現する早期先端診断の役割」、「未来社会と生活を支えるサイエンスの可能性」、「生命（細胞）を観る」の6テーマについて著名な講師に講演をお願いし、国内外最新研究、ビジネス動向に関する講演を実施した。来場者は、本企画開始から5年目にして10,000人を超える10,157人となった。

・基調講演 6テーマ、LSZ出展 66社・団体 87小間

## (3) 新技術説明会、JASIS コンファレンス（技術委員会、環境委員会他との連携事業）

JASIS 2017 展開催期間中、新技術説明会・JASIS コンファレンスを実施した。今回は、新技術説明会はテーマ数が347テーマ（昨年：352テーマ）と前年度に比べ少し減少したが、総聴講者数は16,001人（昨年：15,708人）と昨年より増加した。また、JASIS コンファレンスは、30団体51セッション、総聴講者数4,507人（昨年：4,381人）とこちらも聴講者が増加した。

## (4) JASIS WebExpo開催

平成29年度にJASIS WebExpo 2017を試験的に開催。JASIS 2017開催の前後に、前期24タイトル、後期35タイトルのJASIS 2016人気講演のコンテンツをウェブ公開した。来場者は3,887人、延べ閲覧コンテンツ数は15,128コンテンツと当初予想を上回るアクセスがあった。

JASIS WebExpo 2017実施結果を踏まえ、一部企業出展も開始するJASIS WebExpo 2018の実施準備を行った。

## (5) JASIS 2018開催、JASIS関西2019準備

平成28年11月、JASIS委員会（JSIAとの合同展示委員会）の下に5つの小委員会（展示、展示広報、プロジェクト、新技術説明会・OSF、来場促進）を設置し、JASIS 2017の開催結果を踏まえ、JASIS 2018の運営体制、開催内容、スケジュールを決定した。JASIS関西 2019も展示会概要を決定し、JASIS 2018と同時に申込開始した。”

## (6) JASIS グローバル化のための海外への広報、出展勧誘

国際委員会、技術委員会と協力し、海外への「JASIS」浸透を図るため海外展示会におけるJASISブース等の設置やPR活動を実施した。その結果、JASIS 2017における海外来場者は702人（昨年475人）で昨年より大幅に増加した。

また、展示会委員会としても、平成 29 年 10 月に開催された BCEIA に委員長を派遣し、中国分析測定協会とのミーティングを実施し、双方の活動について理解を深めた。また、平成 30 年 3 月に開催された Pittcon 2018 の JAIMA ミッションにも参加し、欧州、米国関連団体とのミーティング実施や、Pittcon Committ から提供された JAIMA ブースにおいて JASIS の来場・出展誘致活動を国際委員会や技術委員会委員と実施した。

## 10. 統計委員会

### (1) 生産高、輸出高、輸入高統計調査

平成 28 年度から新統計システムを導入し、正会員および賛助会員を対象に四半期ごとの生産高、輸出高、輸入高の統計調査を実施した。統計委員会で四半期ごとの調査結果を分析し、結果を理事会に報告し、会報に掲載した。

### (2) 日米欧受注統計

受注統計小委員会として、JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を推進している。

1) JAIMA-ALDA-Eurom II 合同受注高統計を維持管理した。35 社 (JAIMA 15 社、ALDA 9 社、Eurom II 11 社) の参加を得ている。

2) 以下のとおり日米欧の企業の合同統計を四半期毎に集計した。

① 主な集計項目：ア) 世界 6 地域におけるラボ分析機器ビジネスの総受注額

イ) 世界 6 地域における対象機種種の受注金額および台数

② 地域：北米、欧州、日本、中国、インド、その他の 6 地域

③ 対象 11 機種：GC、GCMS、LC、LCMS、UV、AA、FT-IR、TOC、蛍光、ICP、ICP-MS

④ 参加企業：35 社 (JAIMA 15 社、ALDA 9 社、Eurom II 11 社)

## V. その他の事業活動概要

### 1. 生産高、輸出高、輸入高の動向調査

会員を対象に統計調査を実施し、四半期毎と年度毎の集計結果の発表を行った。

### 2. 分析機器工業の経営実態調査

会員の企業規模等実態調査を実施した。

### 3. 計量法の普及、計量行政施策の実施に対する協力

(1) 国際法定計量機関 (OIML) 関係委員会への協力

① OIML の国内委員会である産業技術総合研究所国際計量研究連絡委員会に専務理事が参加した。

② (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会に専務理事が参加した。

#### 4. その他行政諸施策および他団体事業への協力

- (1) (一財)安全保障貿易情報センター (CISTEC) の出捐団体となっており、安全保障輸出管理委員会に専務理事が参加した。
- (2) 日本工業標準調査会 (JISC) の化学・環境技術専門委員会に臨時委員として職員を派遣している。
- (3) 別紙5のとおり、他団体の JIS 等関係調査事業、ISO/IEC 関係委員会、理事会等に協力した。
- (4) 経済産業省、厚生労働省関係の各種通知、公募情報、各種表彰制度募集、各種法規制関連情報等について、ホームページ掲載、会報掲載、メール送信により会員に周知した。

#### 5. 分析機器に関する製品安全化事業

PL 団体保険制度の事業を推進した。

- (1) 海外を対象とする「海外団体 P L 保険制度」の参加会員 8 社
- (2) 国内を対象とする「国内団体 P L 保険制度」の参加会員 3 社
- (3) CGL 保険 (企業総合賠償責任保険) の参加会員 16 社

#### 6. 協賛名義等の使用承認

平成 29 年度は 22 件の展示会、セミナー等に対し、当工業会の協賛名義等の使用を承認した。

#### 7. 報告書等発行

- (1) 業務関係報告書
  - ① JASIS 2017 結果報告書 (和文)
  - ② JASIS 2017 FINAL REPORT (英文)
  - ③ International Conference Session Abstract (英文)
    - ・ Asia Technical Forum
    - ・ China Forum
    - ・ RSC-Tokyo International Conference Session
  - ④ Japan Symposium , Extended Abstract (英文)
- (2) 「医療機器業公正競争規約」携帯版小冊子 (ポケット版)

#### 8. 高圧ガス保安法施行令の規制緩和対応

平成 28 年度に実施された高圧ガス保安法施行令の規制緩和への業界対応として、SFE/SFC に関する高圧ガス保安協会との共同規格策定作業を行った。並行して、装置使用者向けのガイドライン作成にも着手した。

#### 9. 委員会開催状況

委員会開催状況を別紙 3、各委員会「正・副委員長、小委員会主査等名簿」を別紙 4 に示す。

## 別紙1 会員の異動

### 1. 入会(4社)

#### (1) 正会員(1社)

平成29年4月1日 株式会社大和テクノシステムズ

#### (2) 賛助会員(3社)

平成29年4月1日 SMFL レンタル株式会社

平成29年6月1日 株式会社キアゲン

平成29年6月1日 GE ヘルスケア・ジャパン株式会社

### 2. 退会(10社)

#### (1) 正会員(6社)

平成29年6月30日 日本エフイー・アイ株式会社

平成29年6月30日 富士電機株式会社

平成29年6月30日 株式会社テクノエックス

平成29年9月30日 東京化成工業株式会社

平成29年12月31日 株式会社資生堂

平成30年3月31日 マイクロ化学技研株式会社

#### (2) 賛助会員(4社)

平成29年6月30日 コーンズテクノロジー株式会社

平成29年12月31日 アイデックスラボラトリーズ株式会社

平成30年3月31日 株式会社BWT ジャパン

平成30年3月31日 SMFL レンタル株式会社

### 3. 会社名変更(5社)

#### (1) 正会員(3社)

平成29年4月1日 新) 株式会社三菱ケミカルアナリテック

旧) 株式会社三菱化学アナリテック

平成30年1月4日 新) キヤノンメディカルシステムズ株式会社

旧) 東芝メディカルシステムズ株式会社

平成30年3月9日 新) IDEX Health&Science KK 株式会社

旧) 株式会社イーアールシー

#### (2) 賛助会員(2社)

平成29年3月10日 新) アナログ・デバイセズ株式会社

旧) リニアテクノロジー株式会社

平成30年1月1日 新) ブルカー・ジャパン株式会社

旧) ブルカー・バイオスピン株式会社

## 別紙2 一般社団法人日本分析機器工業会 役員等名簿

平成30年3月31日現在

会長	栗原権右衛門	日本電子株式会社	代表取締役社長
副会長	堀場 厚	株式会社堀場製作所	代表取締役会長兼グループ CEO
副会長	中本 晃	株式会社島津製作所	代表取締役会長
副会長	池田 俊幸	株式会社日立ハイテクノロジーズ	代表執行役 執行役専務
専務理事	松浦 義和	一般社団法人日本分析機器工業会	
理事	赤沢 真一	東亜データケータ株式会社	常務取締役
理事	岸本 京子	京都電子工業株式会社	代表取締役社長
理事	栗原 浩	株式会社三菱ケミカルナリテック	代表取締役社長
理事	合田 豊治	アジレント・テクノロジー株式会社	代表取締役社長
理事	志村 晶	株式会社リガク	代表取締役社長
理事	中村 敏樹	日本分光株式会社	代表取締役社長
理事	和田 直也	ベックマン・コールター株式会社	品質薬事統括部門長
監事	加藤 英夫	特定非営利活動法人日本臨床検査標準協議会	事務局長
監事	小林 久悦	理研計器株式会社	代表取締役社長
監事	長見 善博	ジエールサイエンス株式会社	代表取締役社長
相談役	服部 重彦	株式会社島津製作所	相談役

## 別紙3 委員会開催状況

1. 企画戦略会議	8回
JASIS 中期戦略検討特別委員会	8回
ライフサイエンス市場研究会	12回
2. 技術委員会	12回
企画運営小委員会	12回
3. 環境委員会	12回
4. 労務委員会	4回
5. 知的財産委員会	5回
実務・調査小委員会	11回
6. 国際委員会	9回
輸出管理小委員会	4回
7. 医療機器委員会	5回
医療機器運営委員会	5回
薬機法小委員会	6回
標準・規格小委員会	6回
安全・EMC規格小委員会	6回
IVD-MD 会議((一社)日本臨床検査薬協会との会合)	5回
医療機器業公正取引協議会分析工支部 支部委員会	5回
医療機器国際小委員会	5回
動物医療機器小委員会	6回
8. 広報委員会	11回
会報編纂小委員会/ホームページ小委員会/プレスリリース小委員会	
合同拡大会議として	4回



9. 展示会委員会 (JASIS 委員会)	1 2 回
展示小委員会	1 2 回
展示広報小委員会	1 2 回
新技術説明会・OSF 小委員会	1 1 回
プロジェクト小委員会	1 2 回
(来場促進小委員会)	1 1 回
1 0. 統計委員会	4 回
1 1. 標準化関係委員会	
JIS K0123 「流れ分析通則」原案作成委員会	5 回
JIS C61326-2-6 「EMC 要求事項」原案作成分科会	6 回

以上

別紙4

平成29年度 常設委員会 正・副委員長、小委員会主査等名簿

常設委員会名		氏名（所属）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画戦略会議</li> <li>・JASIS 中期戦略検討特別委員会</li> <li>・ライフサイエンス市場研究会</li> </ul>	正 副 〃 主査 主査 ※ ※	森安里志（島津製作所） 大井泉（日本電子） 山下泰生（堀場製作所） 大井泉（日本電子） 神田浩幸（リガク） 森安里志（島津製作所）（※ファシリテーター） 野村聡（堀場製作所）（※ファシリテーター）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術委員会</li> <li>・企画運営小委員会</li> <li>・JASIS コンファレンス小委員会</li> <li>・グローバル交流小委員会</li> <li>・技術普及調査小委員会</li> <li>・ドキュメント整備小委員会</li> <li>・分析機器将来技術戦略小委員会</li> </ul>	正 副 〃 主査 〃 〃 〃 〃 〃	杉沢寿志（日本電子） 西埜誠（島津製作所） 八谷宏光（東亜ディーケーケー） 杉沢寿志 西埜誠 濱上郁子（堀場製作所） 川村幸嗣（光明理化学工業） 八谷宏光 杉沢寿志
<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境委員会</li> <li>・規格標準化小委員会</li> <li>・環境規制小委員会</li> <li>・国際規制小委員会</li> </ul>	正 副 主査 〃 〃	河合英治（日本電子） 中川勝博（島津製作所） 中川勝博 河合英治 河合英治
<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務委員会</li> </ul>	正 副 〃	田崎克也（アジレント・テクノロジー） 坂口亨（京都電子工業） 大澤暁（リガク）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・知的財産委員会</li> <li>・実務・調査小委員会</li> </ul>	正 副 〃 主査	井上二三夫（シスメックス） 中野博司（島津製作所） 坂谷忠夫（リガク） 南郷興平（シスメックス）

<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際委員会</li> <li>・輸出管理小委員会</li> </ul>	<p>正 副 〃 主査</p>	<p>川本健志（島津製作所） 坂西祥一（堀場製作所） 遠藤政彦（アジレントテクノロジー） 原圃 聡（島津製作所）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・医療機器委員会</li> <li>・薬事法小委員会</li> <li>・標準・規格小委員会</li> <li>・安全・EMC 小委員会</li> <li>・医療機器業公正取引協議会分析工支部</li> <li>・医療機器国際小委員会</li> <li>・動物医療機器小委員会</li> <li>・IVD-MD 地位向上 WG</li> </ul>	<p>正 副 〃 主査 〃 〃 正 主査 〃 〃</p>	<p>飯泉紀子（日立ハイテクノロジーズ） 川中士郎（日本電子） 鈴木一弘（島津製作所） 西村裕之（サクラファインテックジャパン） 中山秀樹（シスメックス） 田中一啓（日立ハイテクノロジーズ） 川中士郎（日本電子） 関口幸児（パナソニックヘルスケア） 船橋真人（富士フィルム） 井口晃弘（日立ハイテクノロジーズ）</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・広報委員会</li> <li>・会誌編纂小委員会</li> <li>・ホームページ小委員会</li> <li>・プレスリリース小委員会</li> </ul>	<p>正 副 〃 〃 主査 〃 〃</p>	<p>前野晃男（堀場製作所） 真鍋伸一（島津製作所） 伊藤裕基（日立ハイテクノロジーズ） 内匠優理香（リガク） 伊藤裕基 真鍋伸一 内匠優理香</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・展示会委員会</li> <li>(JASIS 委員会)</li> <li>・展示小委員会</li> <li>・展示広報小委員会</li> <li>・新技術説明会・OSF 小委員会</li> <li>・プロジェクト小委員会</li> </ul>	<p>正 副 〃 〃 主査 〃 〃 〃</p>	<p>長谷川武義（堀場製作所） 野元政男（日本電子） 五十嵐真人（日立ハイテクノロジーズ） 金子静知（メルク） 野元政男（日本電子） 金子静知 長谷川武義 五十嵐真人</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・統計委員会</li> <li>・受注統計小委員会</li> </ul>	<p>正 主査</p>	<p>伊藤憲治（日立ハイテクサイエンス） 川本健志（島津製作所）</p>

## 別紙5 参加している他団体事業

### 1. 他団体の J I S 等関係調査事業への協力

- (1) 計測・計量分野における用語および信頼性評価に関する国際標準化 (一財) 日本規格協会
- (2) 環境測定 J I S 総括委員会 (一社) 産業環境管理協会
- (3) 環境関係 JIS 委員会 (一社) 日本環境測定分析協会
- (4) 用語関係 JIS 委員会 (公社) 日本分析化学会

### 2. 他団体の ISO/IEC 関係委員会への協力

#### (1) ISO 関係委員会

- ①TC45 (ゴムの化学試験方法) (一社) 日本ゴム工業会
- ②TC61 (プラスチック) 日本プラスチック工業連盟
- ③TC146 (大気の状態) (一社) 産業環境管理協会
- ④TC210 (医療用具の品質管理と関連する一般事項) (一社) 日本医療機器産業連合会
- ⑤TC212 (臨床検査と体外診断検査システム) 日本臨床検査標準協議会
- ⑥TC229 (ナノテクノロジー) (一財) 日本規格協会

#### (2) I E C 関係委員会

- ①TC65/SC65A (工業用プロセスの測定と制御への EMC 要求) (一社) 日本電気計測器工業会
- ②TC111 (RoHS 関連試験法の規格化) (一社) 電子情報技術産業協会

### 3. 他団体の理事会等への協力

- (1) (一財) 安全保障貿易情報センター (評議員会、部会、専門委員会)
- (2) (一社) 日本機械工業連合会 (理事会、参与会)
- (3) 国際計量研究連絡委員会 (OIML 国内委員会) (委員会)
- (4) (一社) 日本計量機器工業連合会国際法定計量調査研究委員会 (委員会)
- (5) (公社) 日本分析化学会 (委員会)
- (6) 日本臨床検査標準協議会 (理事会、委員会)
- (7) (一社) 日本医療機器産業連合会 (理事会、委員会)
- (8) (一財) 医療機器センター (評議員会)
- (9) 日本医師会 (精度管理委員会)
- (10) 医療機器業公正取引協議会 (理事会、委員会)
- (11) 日本臨床検査薬協会 (理事会、委員会)